

# 仙台市民の命と健康を支える医療のあり方に関する提言【概要案】

資料4

- 医療・介護需要の増大や疾病構造の変化への対応が見込まれ、医師の働き方改革の適用も進む中で、限りある医療資源を効果的・効率的に活用し、将来に亘り持続可能な医療提供体制を確保することに加え、地域包括ケアシステムをきめ細かに構築することが重要である。
- 仙台市には、救急、消防、災害対応等を担う消防本部及び消防署が設置されていることや、母子保健事業及び感染症対策を担う役割があることに加え、医療機関間の連携や地域医療・介護連携の構築、在宅医療の基盤整備についても取り組む必要があることから、以下提言する。

## 提言

### 1 救急医療

- 救急需要の伸びや、複合的な疾患を抱える救急患者の増加が予想される中で、医療機関の機能分担・連携強化により、円滑な救急受入体制を整備するとともに、急性期後の後方支援体制を強化するなど、必要とする人が漏れなく救急医療を受けられる体制を確保することが求められる。

### 3 周産期・小児医療

- 高齢出産によるハイリスク妊娠・分娩や、医療的ケアを要する子どもたちへの対応が一層求められている状況を踏まえ、福祉分野とも連携の上、幅広いニーズに的確に対応することができる体制の充実・強化を図る必要がある。

### 5 新興感染症対策

- 新興感染症の発生・まん延に備え、感染が急速に拡大する中でも安定的に医療を提供できる体制を整えることが重要である。

### 2 地域医療・介護連携

- 地域において切れ目のない医療・介護を提供するため、回復期・慢性期患者の在宅移行に向けた在宅医療の拡充並びに在宅医療と急性期・回復期・慢性期の各入院医療及び介護等の情報共有や連携強化が求められる。

### 4 災害時医療

- 大規模災害発生時には、被災者の救護や医療提供の継続などのため、関係機関間の迅速かつ円滑な情報共有と連携体制構築のための備えを十分行うことが必要である。

## 宮城県による4病院再編案について

- 4病院の再編に関しては、救急医療、災害時医療、感染症対策に加え、両病院が高い診療実績を持つ領域(日赤:周産期・人工透析等、労災:整形外科等)への影響・課題を含めて慎重な検討が必要であり、宮城県に対し、再編による仙台医療圏や仙台市への影響を明らかにすることや、検証・検討に必要なデータや資料の提供を引き続き働きかけていくべきである。

## 提言の実現に向けて

- 医科・歯科・薬科の各分野の関係者、関係機関・団体が緊密に連携を図りながら、様々な課題に取り組んできた体制を軸に、医療機関の機能分担や相互連携、さらには福祉や介護、消防など、地域のケア体制を支える多様な立場、職種と協働する枠組みを構築していくことが可能であり、このような取り組みを推し進め、地域包括ケアシステムを支える医療体制の構築を図っていくことが必要である。
- 市民が安心して暮らせる医療体制確保のため、新たに中長期を見据えた医療政策の方針を定め、計画的に各般の施策を推進する必要がある。